

レイケアニュースレター Laycare

株式会社 **レイケアセンター**
Laycare Center Co., Ltd.

<http://www.laycare.co.jp>

VOL.33

ルイヒール

ルイ 14 世のハイヒール

ハイヒール

下水道の整備されていない昔のヨーロッパ、特にパリの道路は糞尿とゴミでまみれていました。裾を汚さないように、と重宝されたのがハイヒールでした。ハイヒールにこんな用途があったのをご存知でしたか。

ルイ 14 世の好んだヒール ハイヒールは男性アイテムだった



17 世紀の時代の男性のセックスアピールは、脚（主にふくらはぎ）にありました。パンツはもちろん、脚をよりアピールできる半ズボン（キュロット）が主流で、筋肉の足りない男性はストッキングに詰め物をしていくくらいです。ルイ 14 世は背が低いことからハイヒールを好んで履きました。ルイ 14 世のハイヒールはルイヒールと呼ばれました。ハイヒールの効果により、ふくらはぎが美しく見え、さらに男性達に広まっていきました。この時代のルイヒールが現在のハイヒールの粗型になっているとする説もあります。

男性から女性へ

1789 年にフランス革命がおこると半ズボンをはかない長ズボン派（サンキュロット）の庶民が半ズボン派（キュロット）の貴族を殺し、恐れた貴族が半ズボンをはかなくなりました。これを機に徐々に長ズボンが主流となっていきます。ふくらはぎが男性を誇示する場所でなくなっていくとともに、男性のハイヒールは消えていきました。ベルサイユ文化の終焉とともに、ハイヒールは女性だけの靴となっていきます。



大人の学習 II

Lesson5

靴の話 III

木型を使った革靴づくり③

せい こう
製 甲

裁断された平面のパーツを立体的にミシンで組み立てる

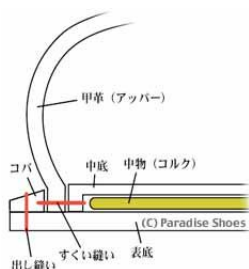


出来上がったアップパー(足の甲をおおう部分)を木型にかぶせ、木型の形に成型する作業です。つり込みが緩いと木型のラインが出ませんが、強くつり込み過ぎると革が切れてしまいます。柔らかい革も硬い革もあるので、素材を見る目も必要になります。この工程でアップパーの表情が決まってしまうので、靴作りの中で最も重要な工程の一つ、と言えるでしょう。

そこ づけ
底 付

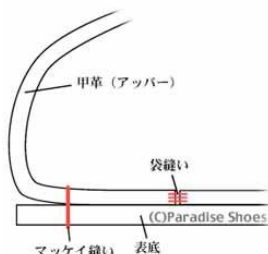
甲部(アップパー)と底部(本底)を結合すること、底付には大別すると下の図のような三つの方法があります。

グッドイヤーウェルト式製法(Goodyear welt process)



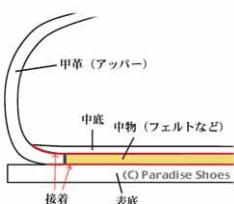
グッドイヤーウェルト製法とも言いますが、略してグッドイヤー製法とも呼ばれています。19世紀初めごろ、米国のチャールズ・グッドイヤー二世(親のチャールズ・グッドイヤーはアメリカの発明家。加硫ゴムを発明したことで、タイヤメーカー「GOODYEAR」の社名の由来となった。)が、それまで手縫いだった靴を機械化に成功したためこの名が付きましました。現在ではセメント式など、簡素化した靴製法の技術が発達したため少なくなりましたが、本格派の高級紳士靴などには、今でもこの製法が使われています。他の製法に比べ、職人の技術が重要なことと、多くの部品と手間がかかる分、たいへん丈夫で長持ちする、しなやかな靴が出来上がります。中物にコルクやフェルトを入れることで、吸湿性・断熱性にも優れ、クッション性と足なじみにも優れています。

マッケイ式製法(Mckay process)



ドイツで開発されたマッケイ縫いマシン(アリアンズ機)による製法です。シンプルな構造上、ソールの返りが良く、どんな柔らかい革でも靴にできる製法です。履き込んでいくうちの、足を包み込むような足なじみは、マッケイ製法独特の特長です。コインローファーなどには、この製法が多く使われています。

セメント式製法(Cemented process)



アップパーと底材を接着で貼り合わせる製法です。略して「セメント製法」とも言います。縫い糸を使わず靴が造れることで、当時量産の難しかった靴に画期的な技術革命をもたらしました。現在では接着剤の進歩とともに、かなり多くの靴がこの製法で造られています。材料を選ばない製法のため、多種多様なデザインや素材を使った靴を造ることが可能になりました。中物には一般的に、クッション性のよいスポンジ素材(フェルトなど)が使われています。

参考文献：社団法人日本皮革産業連合会

株式会社レイケアセンター
〒541-0054 大阪市中央区南本町 4-2-10 本町永和ビル 8階
06-6245-7441
東京レイケアセンター
〒163-0809 東京都新宿区西新宿 2-4-1 新宿 NSビル 9階東
03-6279-0840

レイケアニュース編集室
今月のレイケアニュースはいかがでしたでしょうか。
ご意見ご感想をお寄せ下さい。
「レイケアニュース編集室」
Info@laycare.co.jp